

テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S240614001	チーム名	てす娘び
--------	------------	------	------

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

■チーム名：てす娘び ■メンバー：小林、小出

私たちの住む新潟は『お米どころ』として有名な地域です。

「テスト設計初心者の、女性 2 名で、お米どころ新潟から参加する」ということで、

①テスト、②娘、③おむすび の 3 つの単語を組み合わせたチーム名にしました。

全体のコンセプト

■コンセプト

テスト依頼元の要求を満たしたテスト設計をするために、以下のコンセプトを基にテスト設計を行いました。

「テストの目的、チームの責務を明確にして、テスト設計する」

このコンセプトを基に要求補足書を読み込み、以下の 4 つの分析を行い、システムテストの方針を決定しました。

- ・ テストの責務分析
- ・ チームの責務分析
- ・ プロダクトリスク分析
- ・ プロジェクトリスク分析

■アプローチ

「てす娘び_成果物 1_003_システムテストの方針.xlsx」のシート[システムテスト方針リスト]におけるシステムテストの方針を利用した成果物を確認することで、各システムテストの方針へのアプローチを確認できます。

■達成度

[システムテスト方針リスト]で設計の根拠としたシステムテストの方針を確認できます。今回、すべてのシステムテストの方針がテスト設計内で使用されていることがその表から確認できます。そのため、すべてのシステムテストの方針が達成できていると判断し、コンセプトに沿ったテスト設計が行えたと考えます。

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

各工程の強み・アピールポイントは以下です。

■テスト要求分析

- ・ アプリを利用するユーザー、ユーザーのアクティビティ、アプリの主な利用方法、利用用途、ユーザーが要求する品質を分析したこと
- ・ 要求補足書から責務分析、リスク分析を行い、システムテストの方針を考えたこと
- ・ 優先度を付与しながら機能や観点を抽出したこと
- ・ 仕様書だけではなくユーザーストーリーも組み合わせて機能や観点を抽出したこと
- ・ ユーザーストーリーマッピングを参考に、機能や観点を俯瞰できるようにしたこと
- ・ トレーサビリティ、非機能要件、仕様変更時の対応について検討したこと
- ・ フィードバック一覧に複数の不明点/改善提案/指摘を記載し、仕様の曖昧さを減らしたこと
- ・ 市場にある OS や機種を調査し、分析したこと

■テストアーキテクチャ設計

- ・ 機能や観点の優先度で適切なテスト方法（機能テスト/探索的テスト）を選択したこと
- ・ テスト工数を削減するテスト方法を取り入れたこと
- ・ テスト方法を事前に定義し、チームメンバーで認識合わせを行ったこと
- ・ （機能テスト） 要求分析で出した機能や観点をツリー構造で抽象化して抜け漏れの洗い出しを行ったこと。要求分析工程とアーキテクチャ設計工程を繰り返して観点を考えたこと
- ・ （探索的テスト） 優先度が低い機能の確認における工数削減の施策として探索的テストを取り入れたこと。要求分析で出した機能や観点だけではなく、その観点からセッションの目的、目的に沿った観点を出したこと
- ・ 機能テスト/探索的テストに共通するテスト実施順のルールを決定したこと
- ・ 仕様変更時の対応を検討したこと
- ・ 機能を分類してそれぞれの機能に対して適切な機種で確認する方針を立てたこと

■テスト詳細設計

- ・ （機能テスト） テストパターンを整理する時に、有効的なテストの設計技法を選択して使用したこと。アップデート確認等ではテストパターンは作成して評価対象外にするなど、今後のアップデートを前提とした設計をしたこと
- ・ （探索的テスト） 冗長なテスト実施を防止するために、テストの目安時間を設定したこと

■テスト実装

- ・ （機能テスト） 実施 OS を分かりやすくするために機能と確認 OS をマトリクスにしたこと
- ・ （探索的テスト） テストチャーターとテストレポートを分かりやすく記載したこと

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス(テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性)の全体像を、モデル(PFD やアクティビティ図など)や文章で示してください

チームのテスト設計プロセスの全体像を PFD で記述しました。

→ てす娘び_成果物 0_テスト開発プロセス.xlsx を参照。

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

整理した機能観点に機能観点 ID を割り当て要求分析～実装工程のすべてで使用しました。また、機能テストの詳細設計書と手順書は一意的 ID でトレーサビリティを確保しました。さらに、各成果物で仕様変更時のトレーサビリティを確保する案、システムテストの方針と各成果物とのトレーサビリティなども検討しており、すべての成果物だけでなく、あらゆる場面で双方向に成果物をたどることが可能となっています。

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

- ・テストタイプの決定に機能観点マップの構造を活用したこと
- ・機能テストの観点の抜け漏れを洗い出すためにツリー構造で抽象化したこと
- ・探索的テストのセッションを設計するために機能と観点からそのままテスト時に使用する観点をだすのではなく、ボトムアップでセッションの目的を検討し、トップダウンで目的に沿った観点を出したこと

- ・機能テスト、探索的テストに共通するテストの実施順ルールを決定したこと

- ・機能/観点を分解して、機能/観点到適した機種を選定したこと

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

- ・要求分析工程で、Warikan 仕様書だけではなく、Warikan を使用するユーザーのユーザーストーリーからも機能や観点を出したこと
- ・要求分析で出した機能や観点を、アーキテクチャ設計工程で抽象化し、観点の抜け漏れを俯瞰したこと
- ・リスク分析や責務分析から出したコンセプトに従って、テスト設計を行ったこと
- ・アプリの利用用途や、リリースできる品質レベルをユーザーの利用分析を通して定義したこと

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

- ・要求分析で機能や観点に対して優先度を付与し、優先度の低いものは抽象化して探索的テスト時のテスターの観点としたこと
- ・テスト時の観点を重複させないために、機能や観点の優先度によってテスト方法を決定していること
- ・1つの機能に対して最適なデバイスで確認するために、機能の種類別に機種やOSの選定方針を検討したこと

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義はJSTQBに従います)

同値分割法、境界値分析、探索的テスト

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

品質特性 (ISO/IEC 25010)、ユーザーストーリーマッピングの一部